



「相手の感じ方を大切する心」を育む

校長 中村 理明

本校の教育目標にある『力を合わせて 高め合う子』とは、「相手を思いやり、相手の個性や感じ方を大切にできる子」とも言い換えることができます。児童はどの子ども、「みんなと同じように、自分のことも大切にしてもらいたい」と心から願っています。誰もが、自分の考え方や感じ方を、周りの友達から大切にしてもらいたいと願い、その安心感の中で、思う存分に自分の力を発揮したいと考えているのです。学校とは、児童同士が、互いの個性や感じ方を大切にしながら、一人一人が望ましい自己イメージを高め、自信をもってその可能性を無限に広げていける場所ではなくてはなりません。

近年、一般社会でも「いじめ」には、厳しい目が向けられるようになり、本校でも、攻撃性が表面化されないような「悪ふざけ」や「からかい」であったとしても、そこに相手の個性や感じ方を軽視するような心無い言動があれば、児童同士で、「それはいじめだよ!」と声を出し合い、学級担任を中心に、みんなで話し合いながら改善を図っています。

先日行われた、ビデオ通話アプリを活用したオンライン全校朝会の中で、私は児童に向けて、「自分が、気付かないうちに誰かを傷つけていないかどうか、相手の感じ方を想像しながら丁寧に関わっていくことが大切です。」と伝えました。テレビ画面にイラストを示しながら、例え話の一つに挙げたことが、いつの間にか友達同士の間で当たり前にして使っている「あだ名や呼び捨て」についてです。「仲良しだから」、「前から、そうだったし…」という理由で決めつけるのではなく、仮に自分に意地悪な気持ちがあったとしても、受け取る側がどのように感じているかは、注意深く考えてみる心構えが大切だということと一緒に考えました。「もし自分だったら…」と相手の立場に立って気持ちを想像することは、「相手の個性や感じ方を大切に」するために、必要不可欠な「人権感覚」だと考えるからです。目の前の友達の気持ちを想像し、本人以上に気にかけて(先に気付き)、より良い関わり方を実践していけるよう、学級でも話し合ってもらいました。

「やさしさ」にあふれる国立第一小学校では、児童一人一人が、友達の感じ方や考え方を、心豊かに想像しながら関わっていくことを大切にしていきます。互いの考えや感じ方の違いに気付き、そこから学びが深まる機会を充実させていきます。誰もが安心して自分らしく活躍できる毎日の中で、「今日もみんなと一緒に活躍できた!」という手応えを感じながら過ごせるように、保護者・地域の皆様と連携してまいりますので、今後ともご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

「ふれあい月間」

生活指導主任

東京都では毎年6月、11月をふれあい（いじめ防止強化）月間として、いじめや暴力などの問題行動を未然に防止し、子供たちの健全育成を目指して取組を行っています。本校では6月、11月、2月に設定し、友達と仲良く、お互いに気持ちよく過ごすことを意識して学校生活を送ります。

6月の生活目標は「ほかほか言葉をつかおう」です。どんな言葉が適切であるかが分かるように「ほかほか言葉」の例を全クラスに掲示しています。例をまねて言葉にしてみると何だか気持ちよく過ごせます。このような実感から、自ら主体的に相手の気持ちを考えた「ほかほか言葉」を使って、よりよい関わり方を見付けていく児童の育成を目指しています。



特別支援教室「はばたき」

はばたき教員

特別支援教室「はばたき」は、今年度で7年目を迎えました。「はばたき」では、子供たちの特性に合わせて2～4人で行う小集団指導と、子供と教員が1対1（マンツーマン）で行う個別指導を一人あたり週2時間ほど行っています。

学習内容は、子供たちの特性や目標によって様々です。例えば、不安が強かったり、自信がもてなかったりする児童には、小集団指導で行う内容を予告したり、個別指導で準備をしたりして、見通しがもてるようにします。また、小集団指導の内容の定着を図りたいときには、個別指導の中で教員とできたことや課題についての振り返りをします。

「はばたき」の大きな目標である「自分の学級の中で、自信をもって学校生活を送ることができるようになる」ために、毎時間、自分の目標を意識して課題や活動に取り組んでいます。また、褒められたり、認められたりすることで自己肯定感を高められるようにしています。

特別支援教室「はばたき」の指導内容等にご興味のある方は学校までご連絡ください。